

水引地区コミ協便り

みずひき



第11号

令和7年3月18日発行

水引地区コミュニティ協議会

☎&FAX0996-26-3849



ひな祭りスタンプラリー



家内安全や五穀豊穡等 「利益の多い射勝神社」の 次郎次郎踊りに盛り上がる

次郎次郎踊は『射勝(スグロドン)祭り』とも呼ばれ、射勝(いすぐる)神社の春祭に伴う芸能として、毎年三月の第一日曜日に豊作を祈願し、奉納される農耕劇です。

神事の後、踊りの奉納が始まります。子どもたちが、シイの枝で地面をたたきながら、害虫やスズメを追いつ出す仕事をした後、白手拭いの覆面姿のテチヨ(父親)が現れます。テチヨは木鋸で田打ちをしたり比較的温和なのですが、後に登場する息子たちが『トツゴロ』と呼ばれる火のついた丸太で、害虫に見立てた見物客を追い回したりして暴れ回ります。最後にヨメジヨが現れ、テチヨと抱き合って、赤ん坊(袋に入った糞)を産み落とし、テチヨが持ち上げて喜ぶ仕事をした後、ヨメジヨの頭上のモロブタから、落花生などが見物客にまかれます。同じ時期に、高江町南方神社や久見崎町諏訪神社でも田打ちを題材にした農耕劇が奉納されますが、この次郎次郎踊は、終始無言で行われるのが特徴なのです。



地域食堂クローバーの 桜餅が美味しかったと大好評

ひな祭り会場に併設した、地域食堂『クローバー』の今回特別メニューの桜餅は大好評で、100食ほどが食堂にお越しいただいた皆様のお腹に収まりました。



当紙面をカラー又は拡大してご覧になれます。左記のQRコードをスマホで読み取ると簡単です。



水引地区からのお知らせの下に水引地区コミュニティ協議会便りがあります。

コミセン窓から

『立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花』と、美しい女性をたとえる表現があります。

芍薬、牡丹、百合は、観賞用の花として広く親しまれ馴染みのある花ですが、いずれも根の部分を生薬としても使われます。

漢方の世界では、『立てば芍薬、座れば牡丹』という表現を、効能がよく似ている芍薬と牡丹のどちらを処方するかの目安として用いているそうです。「立った状態で長時間も作業や井戸端会議を続ける女性は芍薬を、すぐに座りたがる女性には牡丹皮配合の処方を考えなさい」と。「歩く姿は百合の花」は百合の花のようにナヨナヨとして歩いている様子を表現しており、心身症のような状態を意味します。その場合には百合の球根を用いなさいとか。

このように、それぞれの症状に合った生薬を用いると健康になれるので「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」は、健康な女性は芍薬・牡丹・百合の花のように美しいという意味だとか。春から夏にかけてのこの季節、リレーで咲く3種の美しい花々を愛でることもまた、心の薬となることでしょう。(大迫)

